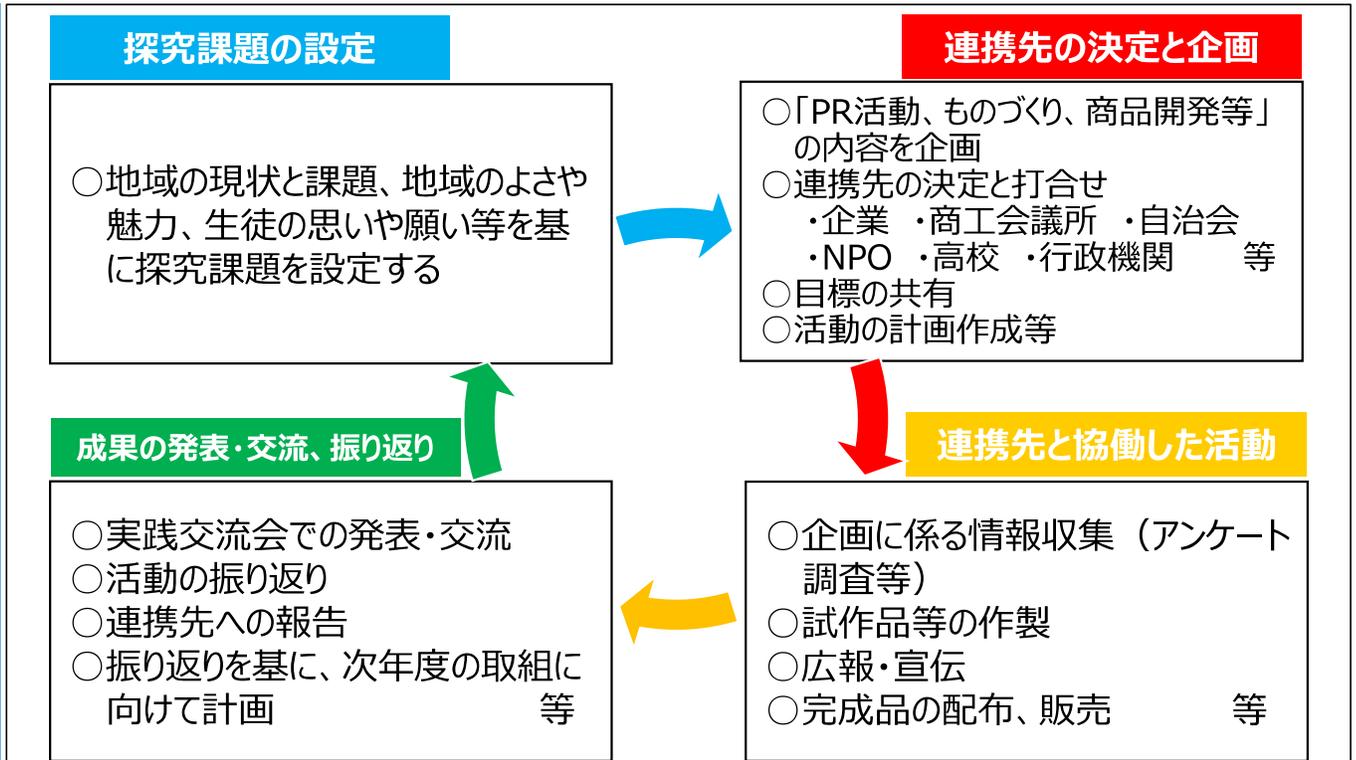


目的

地域・社会や産業界の方々と生徒が連携し、地域のよさを生かした「PR活動、ものづくり、商品開発等」といった行動を伴った探究的・協働的な学習を行う中で、生徒が主体的に自分の役割や将来について考えたり、地域や社会に貢献したりしようとする態度を育成する。

年間計画例



実践校と内容等

実践校（6校）

①中津市立耶馬溪中学校

- 自然災害という地域の課題解決のため、行政等と連携
- 防災学習を通して、防災食の開発や防災の取組を広める活動等を実施



②杵築市立山香中学校

- 害獣駆除の現状から、猪肉の処理・販売業者や饅頭屋と連携
- 猪肉を使ったオリジナル中華まんを開発、販売等を実施



③臼杵市立野津中学校

- 地域を元気づけるため、和菓子販売店、海洋科学高校等と連携
- 特産品を使ったオリジナルの和菓子や洋菓子等の開発、販売等を実施



④竹田市立緑ヶ丘中学校

- フードロス削減のため、地域のトマト農家、食肉加工業者と連携
- 廃棄される食材を活用したレトルトカレーを開発し、PR活動等を実施



⑤佐伯市立米水津中学校

- 地域の魅力を発信するため、米水津振興局や佐伯豊南高校等と連携
- 水産学習を通して、米水津の魅力を広めるためのパンフレット作成等を実施



⑥日田市立南部中学校

- 地域の発展・活性化のため、製茶会社、日田三隈高校等と連携
- 地域と維持・管理を続けてきた茶葉の収穫・製茶や、茶話会の企画・運営等を実施



目的

- ①地域・社会や産業界と連携
- ②地域のよさを生かした商品開発等、行動を伴った探究的・協働的な学習
- ③自らの生活や行動に生かす

期日
場所

令和8年1月31日(土)
別府国際コンベンションセンター
(ビーコンプラザ) レセプションホール

(1) 実践校によるステージ発表



(2) 取組や制作物等のPRタイム

ステージ発表だけでは伝えきれなかった取組の詳細や実際の制作物を各ブースに準備。オリジナル商品を販売したり、参加者に意見をもらったりするなど学校ごとにPRを行った。



(3) グループディスカッション

「地域のためにこれから自分にできること」

学校・学年の枠をこえて、テーマに沿って意見交流を行った。



【参加した生徒・先生・保護者等の感想】

生徒

■他の地域の中学校の皆さんも、各地域で少子高齢化や人口減少が課題となっていて、どこの学校も同じような問題を抱えているんだと思いました。解決するのは簡単なことじゃないし大変だけど、地域の笑顔のために中学生が今からできることを考え、頑張りたいです。交流できてよかったです。

■これまで僕たちはフードロスについて学んできました。今日の発表で萩町や自分の故郷についてたくさん知ることができました。僕たちの発表も声が届いていたと思います。グループディスカッションではたくさんの意見が出てとっても楽しかったです。未来創造プロジェクトとしてこれからも頑張っていきます。

先生

■各校が、たくさんの地域人材、高校、専門家と連携して課題解決を目指している。そういう外部の力を利用する意識を校長、担任が持つことが必要であると感じた。また、地域貢献プロジェクトが大変素晴らしい取り組みなので、これを、市内のすべての学校に共有したいと感じた。

■どの学校の取組も、自分の身の回りや地域の課題や強みを見つめ直し、そこから自分たちで考え課題解決に向けて発信したり、行動したりしているそのプロセスが素晴らしいと感じました。自分が地域に貢献することで、自己肯定感が高まり、さらに主体性が生まれ、自分の将来の夢につながっていくなと思いました。

保護者

■地域の方々と交流しながら子ども主体で動いたプロジェクトで、子どもたちは大きな自信をつけたと思います。

■どの学校も生徒と地域の関わりがよくとても良かったです。企業とコラボしたり、生産者の方と話し合い商品化したりと、将来がとても楽しみです。

交流会の様子と感想等